

環境教育・国際協力・環境計画(1) (3-E-9-1～3-E-10-2)

本セッションでは、水環境分野での環境教育・環境保全活動に関する 6 件の発表が行われた。3-E-9-2 では、自然豊かな谷戸の休耕田・湿地における小学生の野外学習に生物観察などの専門技術者としての協力のあり方を検討し、専門家の適切な指導によって子どもたちの観察力の向上が報告された。しかし、継続した関係が維持できるかどうかは課題が残る。9-3 では、身近な河川などの水質調査が市民活動によって実施されており、汚染物質である陰イオン界面活性剤の測定方法の開発と調査を通じて意識啓発を図る試みである。水質の簡易測定技術は市民活動を支える大きな道具の一つである。一方で、正しい測定方法、得られた数値の取り扱い方など、事前学習と解析作業において専門家との情報交換は重要である。9-4 では、小学校 5 年生を対象に「循環」を意識した環境学習のプログラムの実施によって、水への関心や理解度を探った報告である。子どもたちは、生活の中で多くの水にまつわる体験をしているが、その体験が水環境・自然への興味関心、あるいは科学的な探求心につながっていないようである。「水」のおもしろさに気づくような体験とその意味が理解できるような支援が必要である。10-1 では、源流から河口までの移動しながらの河川水質調査について、各採水調査地点で採水時刻が異なってしまう問題を検討するために、各調査地点に人を配置して、24 時間の連続調査を実施し、水質変化の詳細を検討したものである。参加者の感想で、原体験の違いによって河川環境の評価が異なっている点が指摘されており、今後の河川環境の保全において意見調整や相互理解のための交流が必要であろう。10-2 では、地域住民が水環境を保全管理するための活動マニュアルの作成について報告された。タイ・ランブーン市での事例で、マニュアルは評価されたものの、学校・地域住民の参加がなかったことで現場を反映した改訂もされなかった問題があった。現場での働きかけが重要である。

以上の発表には 50～70 名もの聴講者がおり、環境教育に対する昨今の関心の高さが感じられた。また、環境教育に関する発表件数は今まであまり多くなかったので、各地での活動に今後多くの学会員が専門家として関わり、その事例報告や教材・プログラム開発などが進むことを期待したい。

(岩手県立大学総合政策学部 山田 一裕)